

題材「土の恵みから生まれる わたしの焼き物」6時間中の第2,3,4時

(1) 学習のねらい

アイデアスケッチを描き、どんな作品を作ろうかイメージを膨らませた子供たちが、オープン粘土で家族や友達、自分にプレゼントするための作品を制作することを通して、自分の思いや意図を伝える造形表現に気づき、相手意識や目的意識をもって、自分の思いを作品に表現することができる。

(2) 本時の学習材

制作工程の写真

○アイデアスケッチを描き、どんな作品を作ろうかイメージを膨らませた子供たちは、制作していく中で自分の思いをどうすれば表現できるのか試行錯誤するだろう。粘土を目の前にして「どうすればお茶碗の形にすることができるのか」と制作方法を考え出したところで、教師は学習材を提示する。

○本学習材は、教師が実際に制作している工程をコマ送りのように撮影した写真である。この写真に出会った子どもたちは、どのように自分の考えた作品を形にしていくのかをより具体的に想像し、制作意欲が掻き立てられるだろう。そして、提示した制作工程をヒントとしてどのように自分の作品を形にしていって良いのかに気づくことが期待できる。

(3) 学習の展開

過程	学 習 活 動	予想される子どもの動き	時間	指 導 と 評 価
	1. オープン粘土、粘土板、水のお皿を準備する。	学習問題 作りたい作品のイメージをどうすれば表現できるのだろうか。	10'	・一つの机を制作するための道具をたくさん置く場所に、そこから自由にとっていけるようにする。
	2. 制作工程の写真を提示する。	・お茶碗と違ってどうやって作るのだった。 ・そういえば前回3種類くらいのつくり方を見たな。 ・手びねりでやってみようかな。 ・ひもづくり楽しそうだな。 ・粘土が乾いて作りづらくなった。	10'	○自分の作品をどうすれば表現できるのだろうと子供たちが思いを巡らせたときに学習材を提示する。
	3. 制作する。	学習課題 イメージをオープン粘土で表現しよう ・どうやって模様をつけようかな。 ・アイデアスケッチと作る作品が違って大丈夫？ ・イメージと少し違うな。	80'	○制作には入れない子がいるようであれば、他の子どもの制作工程をミラーリングで前に提示する。
	4. 片付けをする。	・お母さんに花瓶を作ってあげるんだ。 ・やっぱり僕は自分のお茶碗が欲しいな。 ○そういう作り方がいいね。僕もや	20'	・粘土が乾燥して制作しづらくなるので、紙皿に水を入れて、乾燥してきたら手を濡らすようにアドバイスする。 ・アイデアスケッチと制作していく作品が異なっても大丈夫だということを伝える。 ○片付ける際に指示が通りに

		ってみよ。		くいと考えられるため、テレビを通して、指示を出す 評価 相手意識や目的意識をもって自分のイメージを表現できるように制作に取り組んでいたかを児童の活動や言葉から読み取る。
--	--	-------	--	--